なにつくってるの？
東葛
工場拝見⑤

水まわりのオートクチュール
ファインテック高橋

私たちが、日常何気なく使っているキッチンやお風呂の水道の蛇口。これを製造販売している会社が、松戸市にあるファインテック高橋だ。創業は明治40年、今年で113年目を迎え、業界でも5番目に古い老舗企業だ。

多くの工程を経て水道の蛇口ができあがる

創業当時は、港区芝白金に社屋を構え、トイレの便器洗浄用フラッシュバルブ（流す際の水量を調整する部分）を製造。欧米からの輸入に頼っていた製品の国内製造販売が可能となり「フラッシュバルブの高橋」と言われる程に成長。現在の場所に工場を移転して来年で30年になる。

製造販売している製品は、UR都市機の住宅や高級ホテルなどの水栓金具、キッチンや浴室の蛇口、洗濯機の下に設置されているホースと排水管を繋ぐ排水パントラップなどである。

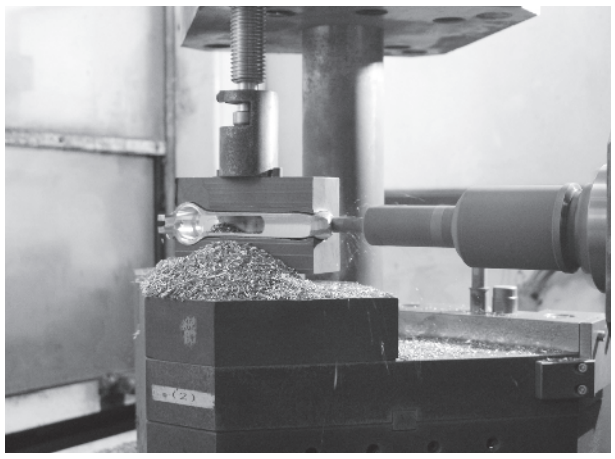
3階建ての工場で製造が行われ、1階には巨大な溶解用高周波電気炉を2基、銅合金鋳物製造ライン1式などが設置されており、製品の基礎となる銅を1200度の電気炉で溶かし、型に流し込みをする。その型で作った30種類にもなる鋳造製品を2階に運び、削ったり細かい穴を開け、最終的には薬品に浸しメッキを施すときれいに光る製品に変身する。

クライアントは、LIXIL（旧伊奈製陶）やグローエジャパンなど。「水まわりのオートクチュール」という社の姿勢どおりに、特注や個別オーダーにも応じており、企画・開発などから1年から2年ほど時間を要するものもある。

最終の組み立て工程などにインドネシアからの若い作業員が5名働いている。人事担当者が現地に赴き面接をして採用した人員で、外国人技能実習生として来日。ここで手にした技術を本国でも生かせるようにと、メッキの技能試験を受けるなどし、熱心に仕事に取り組む姿勢は高く評価されている。

蛇口一つとってみても巨大な電気炉を使う行程から、熟練の技を要する細かい作業まで多岐に渡る。また、コロナ禍において、滅菌作用のある銅でつくられている製品の将来性も高まっているそうだ。

（取材・文＝高井さつき／写真＝高井信成）


マシニングセンターで部品に穴をあける作業

■ファインテック高橋
松戸市松飛台中原286-38
☎047・384・0881

ファインテックホームページ

北の森 ノースウッズの世界
自然写真家 大竹英洋さんの写真展
松戸市
2月28日まで

北米の湖水地方「ノースウッズ」をフィールドとし、2018年には日経ナショナル・ジオグラフィック写真賞、ネイチャー部門最優秀賞を受賞している自然写真家　大竹英洋さんの写真展「北の森 ノースウッズの世界」が、松戸のgallery Ten→Sen（ギャラリーテンセン）にて開催中だ。

会場には北米の自然や野生動物たちの美しい姿を捉えた写真の他、大竹さんが撮影時、実際に着用しているブーツやグローブ、スノーシューなどの貴重な道具も見ることができる。

同ギャラリー代表の吉田つぢさんは「このような胸を打つ写真を撮ることが出来るのは、大竹さんがその土地や自然、動物たちに受け入れられている証だと思います。大竹さんが写真家になった経緯なども含め、大人はもちろん、これからどんな人生を歩んだらよいかと迷っている10代の人たちにもぜひ見てもらいたい」と話す。

大自然の中で暮らす動物たちの貴重な姿を見ることができる

期間中、大竹英洋さん本人がスライドを使ってノースウッズの解説をする「スライドトーク」も開催。（2月6日、7日　予約制・有料）詳細はホームページをご覧ください。

（写真・文＝松原美穂子）

■北の森　ノースウッズの世界　大竹英洋 写真展
開催期間：1月9日～2月28日の土・日・月・火曜日の12時～19時
（2月6日14時30分以降と7日はトークイベント申込者のみの入場となります）
会場：gallery Ten→Sen（松戸市松戸1339-1 中国料理天廣堂3階）
入場無料
※本展のギャラリー運営はカンパで行っております。皆さまの応援カンパを大歓迎いたします！

gallery Ten→Sen ホームページ

子どもにも見やすいよう展示は低めの位置に

ひななっちゃんの
子育てららら⑬

空前のワンワン、にゃんにゃんブーム

2021年！本年もどうぞよろしくお願いいたします！

さて、我が子が一歳を越えてから、一気に発語が増えて来ました。

「パパ」「ママ」の次に出てきた「ワンワン」「にゃんにゃん」という言葉。犬を飼っているわけでも、猫を飼っているわけでもないのですが…。一体どこで覚えるのでしょうか…。

お散歩しているときも、遠くにいる犬を見つけては「ワンワン！ワンワン！」と教えてくれます。

実際に近くに来ると、どうしていいかわからずなかなか手を出すことはできないのですが。「バイバイ」と一生懸命手を振っているのが愛おしいです。

先日のこと。横断歩道を渡るときに「にゃんにゃん！にゃんにゃん！」と我が子が叫びはじめました。

ところがどこを見渡しても、猫の姿は見えず「にゃんにゃん？いないねえ」と返事をすると、道路の向こう側に「クロネコヤマト」のトラックが！！「あ、ほんとだね！にゃんにゃんだね！」と笑ってしまいました。

この「ワンワン、にゃんにゃんブーム」皆さんのおうちも同じかどうか、とっても知りたいです。もし、「うちもだよ！」という方はぜひ教えてください！

子どもの成長は一瞬ですよね。今年もしっかりここに記していきます。

ひなたなほこ（ひななっちゃん）
千葉県柏市を中心に活動する表現教育アーティスト。自主制作のファーストシングル「柏シワ」はわずか1年で1000枚を完売し売上を柏市に寄付。

連載「がん診療最前線」
25・ロボット支援手術…日本での現状と将来性

医療の最前線で活躍するスペシャリスト新東京病院の先生に、最新のがん診療について、連載でリポートしてもらう。

岡部寛先生

がんの治療法は日々進歩していますが、がんが局所にとどまっているうちは手術で切除してしまうのが、多くのタイプのがんにとって最も有効な治療であることは今でも変わりありません。

一方、手術は一時的に体にダメージを与えるため、肺炎などの合併症を引き起こし、術後の体力低下につながることもあります。こうしたダメージを抑えるため、普及が進みつつあるのが「ロボット支援手術」です。8ミリ程度の小さな傷から体内に挿入されたカメラと細かい操作が可能な手術器具を自在に操ることができ、複雑な手術手技を精密かつ安全に行うことができます。

日本では2012年に前立腺がんに保険適用となったのを皮切りに、現在では食道・胃・直腸・膵臓・肺、膀胱・腎・子宮などの多くのがんに適用が拡大されています。安全性を担保するために手術数など一定の施設基準を満たす病院のみで保険診療が認められていますが、手術支援ロボットを導入する病院は年々増えています。

導入の主な目的は、手術の質や安全性を高めることにありますが、その将来性が期待されていることも導入の大きな理由になっています。

既に技術的には、画像データを処理して手術中に正確な切除が行えるようにナビゲーションを行ったり、手術シミュレーションにより手術手技の習得効率を高めたり、難しい手術を遠隔地から支援することなどが可能です。人工知能の搭載も盛んに研究されています。

現在はアメリカで開発された「ダビンチ」が世界的に使用されていますが、導入のコストが高いことが問題でした。最近国産の手術ロボットも開発・販売が始まっており、今後より性能が高いロボットが普及してコストも下がることが期待されています。

新東京病院　消化器がん腹腔鏡・ロボット手術センター長　岡部 寛 先生

■新東京病院
通常診療・診察は、松戸駅東口徒歩2分の新東京クリニックへ。
問☎047・366・7000（代表）受付8時～11時30分・13時30分～16時（日曜・祝祭日休診）

消化器外科 新東京病院 ホームページ